
偽装恋愛

皿尾 りお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽装恋愛

【著者名】

N3131D

【作者名】 皿尾 りお

【あらすじ】

あなたの事ですよ。私の事ですよ。みんなの事ですよ。

「ねえ、私の事、どれくらい好き?」

敏行は、煙草をもみ消して、うつぶせになり枕に顔をうずめたままの琴美を包むように覆いか

ぶさると、

「難しいなあ・・・」

と、言いながら、琴美の細い腰に大きな手を回し、白い首筋にキスをした。

琴美は黙つたまま、ゆっくりと枕から顔をあげ、

「私も・・・難しいなあ・・・」

と、言い、敏行のもみ消した煙草に、ラブホテルになら必ずある安っぽいライターで、もう一

度火を点け、セックスの後の体に隅々まで行き渡るよう、煙を深く吸い込んだ。

「あなたの体は大好きよ。」

と、琴美が言つ。

「それは、同じだな。」

と、敏行が言つ。

ボリュームを下げたはずのスピーカーから、いつの間にかだけの流行の音楽が流れている。

「あなたは必要よ。」

「それも一緒にだな。」

「でも、必要じゃなくなればいいとも思つわ。」

「・・・やうだな。」

と、敏行は、静かに微笑み、琴美の背中にくちづけながら、答えた。

そして、そのまま太い腕で琴美を仰向けにさせ、再び、白すぎる肌に愛撫を始める。

部屋には、再び汗の匂いと体液、煙を立てたままの煙草の匂いが充満し始める。

世の中、偽装だらけだ。

でも、それも仕方のないことと思つ。

世の中、偽物が本物のように主張し、

本物が、本物であることを主張しない。

そもそも、本物が本物である事を主張しなければならない。

この、二人は、主張できるようになるのだろうか？

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3131d/>

偽装恋愛

2010年11月6日01時58分発行